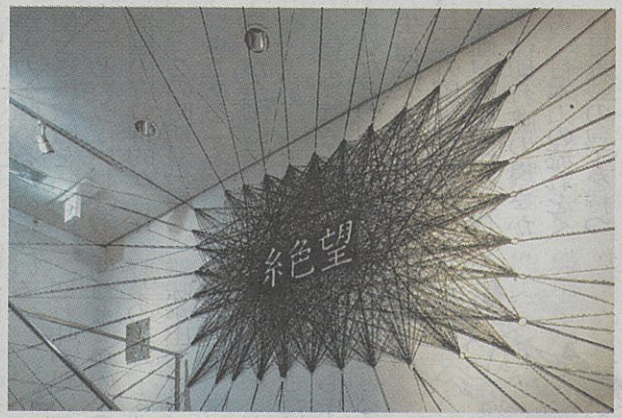

「みたいものしかみない」
2023年、リリアン糸（絹・藍）
サイズ可変
（作家蔵、撮影―木暮伸也）

田島史朗（1972年～）

〈名画の扉〉 大川美術館企画展「桐生のアーティスト2023 KIRYU Days―昨日の明日、そしてこれから」から

田島史朗さんは1972年桐生市生まれ。97年、多摩美術大学彫刻学科を卒業後、奄美大島に移住し、99年には東南アジアを周遊。2000年からは大学、高校で教壇に立ちながら、制作を続けてきました。06年にはジュエリーブランドAtelier Ardigliaを設立。近年は、桐生で日本の古色を研究する父・田島勝博氏の天然染色研究所に学び、また、農業にも携わり、染料や穀物類の研究を独自に始めました。海の底から山の上まで、他物との関わりと変化に着目した多様な表現活動を展開しています。

今回は、当館の階段をともなう吹き抜け空間において「自分のルーツをひもとくように」制作に向かったと語ります。糸を張りめぐらせて、言霊のように言葉を宙に出現させた本作は、独特の緊張感に満ちています。言葉の脇には針が仮置きされています。それは絶望の先にみえてくる希望もまた流動的であることを一瞬うかがわせる、そんな仕掛けでもあったでしょうか。

（小此木）

※11日（土）午後2時から展示室で田島史朗さんのアーティストトークを開催。